

オーディオ実験室収載

音源の比較試聴(42)

—シェラザード—

1. 始めに

前報(41)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも述べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と CD と STAGE+からの配信を比較試聴します。
アナログ盤は下記を使用します。

PHILIPS 25PC-74

セルゲイ・リムスキー・コルサコフ 交響曲組曲シェラザード
キリル・コンドラシン指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

CD は下記を使用します。

DECCA UCCD-4418

セルゲイ・リムスキー・コルサコフ 交響曲組曲シェラザード
キリル・コンドラシン指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

Victor VICC-75007

セルゲイ・リムスキー・コルサコフ 交響曲組曲シェラザード
ウラディミール・フェドセーエフ指揮モスクワラヂオ交響楽団

配信は STAGE+とベルリンフィルデジタルコンサートホールから上記と同一の曲を選択します。

セルゲイ・リムスキー・コルサコフ 交響曲組曲シェラザード
ジャナンドレア・ノセダ指揮サンタ・チェチリア国立アカデミー管弦楽団
セルゲイ・リムスキー・コルサコフ 交響曲組曲シェラザード
トゥガン・ソフィエフ指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

CD

EMT981→TruPhase(B)→TruPhase(A)

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログのコンドラシン指揮アムステルダムコンセルトヘボウ盤は、この曲の定番です。ヴァイオリンのソロやハープや木管などの質感は十分で、オーケストラの優雅な協和が聴き取れます。

CDのコンドラシン指揮アムステルダムコンセルトヘボウの演奏は、上記アナログ盤とマスターが同じのようで、上記アナログ盤の表情を受け継いでいますが、弦などは若干硬質感が出てきます。

CDのフェドセーエフ指揮モスクワラヂオ交響楽団の演奏は、くつきりはつきりタイプの押し出しの良い演奏です。

STAGE+の配信のノセダ指揮サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団の演奏は、STAGE+を楽しむ(345)で報告したとおり、コンサートマスターの艶やかなソロヴァイオリン、ハープの豊かな響き、木管の柔らかな音色などを散りばめ、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団のシルキータッチの演奏です。

ベルリンフィルディジタルコンサートホールの配信のソフィエフ指揮ベルリンフィルの演奏は、コンサートマスターの透明度の高いソロヴァイオリン、ハープや木管の響きの豊かさ、緻密なオーケストレーションが味わえます。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくっており、収録年代や収録環境の違いがよく分かり、アナログ、CD、配信それぞれの魅力が現れていきました。

以上